

# 法燈繼承式

宗祖日蓮聖人 第729の遠忌報恩 お会式法要

逆修法号授与式

日時 11月22日(月) 午後1~午後4時

開祖妙地院日亀上人第百遠忌報恩

法燈繼承式

日時 11月23日(祝) 午後1~午後3時

法燈繼承式

祝賀会

日時 11月23日(祝) 午後5時~午後8時



## 維時二〇二〇平成二十二年十一月二十三日 正中山別院 護国山妙法華院 法燈繼承式奉行

第四世妙法華院日明 新聞智照上人退任 第五世妙法華院日修 新聞智孝上人入寺

# 大本山 中山法華經寺

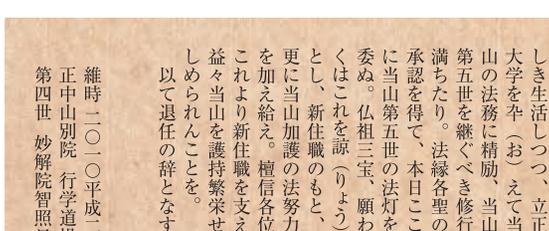
# 新井日湛猊下 ご来臨!!

### 五十六年ぶりに奉行

平成二十二年十一月二十三日(祝)、午後一時より妙法華院本堂にて、当山五十六年ぶりの法燈繼承式が奉行されました。

会場は日蓮宗近畿教区長 行守寺 御山主 清水教信僧正、大本山法華經寺貫首 新井日湛猊下、本山妙國寺貫首 岡部日聰猊下等多数のご来賓、法縁寺院並びに檀信徒、親族二百名あまりの参列者が見守る中、半

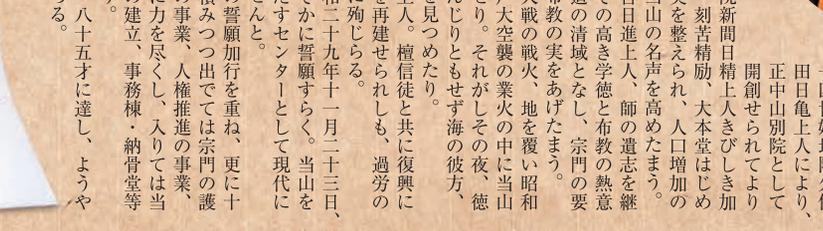
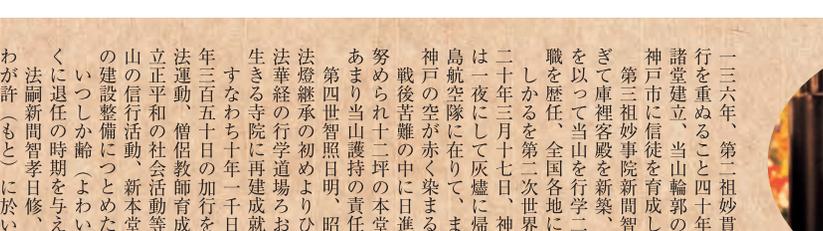
鐘の音が境内に響きわたり雅楽の音色が奏でる中、灑水散華、そしてオリジナル曲『今ささぐ』(智照詩)のメロディにのせて六人の天童による献灯献花が行われました。そして、天童が退堂の後、昇堂太鼓の音が静寂を打ち破って響きわたります。いよいよ儀式のクライマックスへの始まりです。会場全体が唱題につつまれる中、前任職智照上人・新任職智孝上人と協導師、式衆をお迎えし、式は本番へと進んでいきました。



- 式次第は次の通りです。
- 始、灑水散華・献灯献花献香
  - 一、導師式衆入堂
  - 一、道場請
  - 一、勸場儀
  - 一、開經
  - 一、退任奉告
  - 一、繼承の儀
  - 一、登壇
  - 一、読経(経/自我偈(供膳))
  - 一、入寺奉告
  - 一、祖訓拝読(生死一大事血脉鈔)
  - 一、唱題
  - 一、宝塔偈
  - 一、報恩回向
  - 一、四弘誓願
  - 一、記念品贈呈
  - 別、歴代廟参
  - 別、記念写真
- (退任) 岡崎 洋氏  
(入寺) 紙野 豊氏

式後、興奮冷めやらぬ列席者は、改めて院首の五十六年間の歴史と平和運動の活動の重み、住職としての偉大な功績を今もって深く認識されたことと思えます。

と、同時に檀信徒の皆様は、この間、師僧智照上人を助け、修行と研鑽を重ねて精進されてこられた智孝上人と奥様、そしてその家族との信頼関係を、改めて心に深く刻まれたことでしょう。



### 智照上人退任奉告文

慎み敬って南無輪具足未曾有の大曼荼羅勧請の諸尊殊には、未法有縁の大導師宗祖日蓮大聖人知見照覧の御前に於て報告し奉る。

それ惟るに、当山は明治十七年正中山法華經寺第一四世妙法華院日修上人により、正中山別院として開創せられてより一三六年、第二祖妙法華院新聞日精上人きびしき加行を重ねること四十年、刻苦精勵、大本堂はじめ諸堂建立、当山輪郭の美を整えられ、人口増加の神戸市に信徒を育成し当山の名声を高めたまう。

第三祖妙法華院新聞日進上人、師の遺志を継ぎて庫裡客殿を新築、その高き学徳と布教の熱意を以てて当山を行学二道の清域となし、宗門の要職を歴任、全国各地に布教の実をあげたまう。

しかるる第二次世界大戦の戦火、地を覆い昭和二十年三月十七日、神戸大空襲の業火の中に当山は一夜にして灰燼に帰せられた。それがその夜、徳島航空隊に在りて、まんじりともせず海の彼方神戸の空が赤く染まるを見つめた。

戦後苦難の中に日進上人。檀信徒と共に復興に努められ十二坪の本堂を再建せられしも、過労のあまり当山護持の責任に殉じらる。

第四世智照日明、昭和二十九年十一月二十三日、法燈繼承の初めよりひそかに誓願すらく。当山を法華經の行学道場おたすセンターとして現代に生きる寺院に再建成就せんと。

すなわち十年一千日の誓願加行を重ね、更に十年三百五十日の加行を積みつつ出でては宗門の護法運動、僧侶教師育成の事業、人権推進の事業、立正平和の社会活動等に力を尽くし、入りては当山の信行活動、新本堂の建立、事務棟・納骨堂等の建設整備につとめたり。

いつしか齢(よわい)八十五才に達し、ようやくに退任の時期を与えらる。

法嗣新聞智孝日修、わが許(もと)に於いて、幼時より自活に等しき生活しつつ、立正大学を卒(お)えて当山の法務に精勵、当山第五世を継ぐべき修行満ちたり。法縁各聖の承認を得て、本日ここに当山第五世の法燈を委ぬ。仏祖三宝、願わくはこれを誦(りよう)とし、新任職(もと)とし、新住職(もと)とし、更に当山加護の法努力を加え給え。檀信各位これより新任職を支え益々当山を護持繁栄せしめられんことを。

以て退任の辞となす。

# 皆共に佛道を成ぜん

## 第五世住職誕生

智孝上人は法燈継承式で師匠、列席者の見守る中で、入寺奉告文を力強く宣誓され、初めての登壇で新住職としての読経をされました。中でも、新任職の奉告文の阪神淡路大震災に想いを寄せるくだりでは、その当時を思い出されたのか、しばし感無量になられて声を詰まらせて読

み上げられる場面もありました。式場全体がこの想いを心に刻まれ感動されたことでしょう。また、智孝上人の後姿にひしひしとした情熱が伝わってきました。そのときの師匠のお顔がとても印象的で、院首としての安堵された優しいお顔に感銘を受けました。列席者の皆様もおそらくこの感激は、いつまでも心の奥底に残り続けるのではないのでしょうか。



**秘密のお話し その1**  
**1 めがねの秘密**

私は入寺式の当日に眼鏡をかけた。普段は裸眼で何でも出来るので多くの皆さんは、私の眼鏡姿を知らない。しかし震災の頃から乱視がひどくなっていた。眼鏡は10年以上も前から持っていたのである。しかし最近になって老眼も加わり見えにくくなっていった。夜の車の運転等では使っていたのだが、眼鏡も型が古すぎて一緒に歩く女房が恥ずかしい、という。しかたなく、イマフウの四角い眼鏡を最近買った。法燈継承式というのは、変えたその日から水色に衣の色を、自分の気持ちと切り替える小道具のひとつとして、その日から着用したのである。当日はすぐに私と気づかずキョロキョロしている皆さんを見て、眼鏡の奥で微笑んでいた。



南無久遠実成天恩教主本師釈迦牟尼佛 南無上行 無辺行 淨行 安立行等本化地涌之諸大菩薩。総じては、十界互具未曾有之大曼荼羅勸請の諸尊、殊に菩薩 別しては當山開山以来歴代の諸上人。来到道場知見照覧の御宝前において、恭しく一乗円頓の法筵を張り、法燈継承の式典に擬し奉る。

夫れ、當山は、明治十七年に正中山別院として開創され、時の中山法華経寺第百十四世久保田日龜上人を開祖と仰ぐ。爾來、第二祖妙賢院日精上人、第三世妙事院日進上人、師匠第四世妙解院日明上人と法燈は受け継がれ護持される。師匠日明上人は、本堂・事務所等の新築落慶、納骨堂の増築、境内地拡張事業に及ぼすに、山内整備に取組まれ、その御功績は甚大なり。

沙門某も弟子として事業に協力し、その新堂において、こうして自身の入寺の栄に浴する事は、感慨極まりなし。

小納、伏して回顧するに、昭和五十七年四月十八日、高校卒業を機に仏縁により、新聞智照日明上人を師匠に頂き、出家・得度し仏門に入る。得度の後立正大学にて広く仏教や日蓮教学を学ぶ。

またクラブ活動や下宿生活、全国にかけがえのない友を得、社会性を育む。在学中に信行道場を成満し、日蓮宗教師の資格を得、卒業後は当妙法華院の法務職員として、特に兄弟弟子故西村日賢上人に、僧道生活の基本を請いながら精進する。

平成元年度日蓮宗大荒行堂初行を成満。平成三年に妻陽子と結婚。山内に於いて専念し、夫婦共々當山の給仕に専念し、子室にも恵まれ、生活も落ち着いて平成七年一月十七日未明、突如として阪神大震災が当地を襲う。幸い師匠や家族に怪我無く一命を取りとめるものの、檀信徒や友人に多くの犠牲者や被

害が出、日参した遺体安置所では無数の亡骸の前にし、無力感にさいなまれる。震災の第三回忌を終えた平成九年、師匠の勧めもあり、一か法華経を勉強し直すべく、家族と離れ日蓮宗布教研修所の門を敲く。平成十八年には、本日、日蓮下化主のまに、中山法華経寺大荒行堂の瑞門を再び踏む。

また願えば、卒業して今日に至るまで、兵庫東部管内に於いては、宗務所や護法事務局、各会のお手伝いをさせて頂き、様々な経験を重ね、清水教信所長には、特別お世話になり震災の記録誌発行や管内日蓮宗新聞づくり。さらには平成十九年より日蓮宗近畿教区の事務局を勤めさせて頂き、宗務行政の一端を担う。

この間當山においては檀信徒との親交交流も深まり、寺僧和融・信頼の絆を得る。親子・あるいは祖父母ほども年の離れた目上の檀信徒に可愛がられ、ご厚誼を賜ったこと、我自身に依る。本日の華燭の典に際し、ご参列いただきたかった思いの強さ、亡くなった檀信徒も数知れず。

我日修、師匠日明上人の弟子として修行する事、三十有余年。この度、清水教信教区長・新井日湛院下・岡部日聰院下にご来駕賜り、柳嶋法縁・堺法縁瑠璃演会各御尊聖の御理解を得、誠に浅学非才なれども、本日、當山第五世の法燈継承入寺式を挙行する事を得たり。

宗祖日蓮大聖人第七九遠忌報恩会式・開祖日龜上人の第百遠忌報恩年にあたり、當山歴代上人、外護丹誠の檀信徒各諸聖靈、日明上人、本日ご出席の各聖各位の前で、この感激を永久に止め今ここに誓願す。

宗祖日蓮大聖人の立正安国の教線拡大をはかり、當山山門興隆、檀信徒の榮昌、引いては世界立正平和に昼夜常精進、邁進する事を誓い奉る。

仰ぎ願わくは當山勸請の仏祖三寶、諸天善神。哀愍加被の御手を垂れ給わん事を。

願わくはこの功德をもって普く一切に及ぼし我等と衆生と皆共に仏道を成ぜんことを。

願い此功德、普及於一切、我等与衆生、皆俱成仏道、皆俱成仏道、南無妙法蓮華經(三唱)

維持平成二十二年十二月二十三日  
正中山別院 護国山 妙法華院  
第五世伝燈沙門  
妙久院日修 和南

**入寺奉告文**

害が出、日参した遺体安置所では無数の亡骸の前にし、無力感にさいなまれる。震災の第三回忌を終えた平成九年、師匠の勧めもあり、一か法華経を勉強し直すべく、家族と離れ日蓮宗布教研修所の門を敲く。平成十八年には、本日、日蓮下化主のまに、中山法華経寺大荒行堂の瑞門を再び踏む。

また願えば、卒業して今日に至るまで、兵庫東部管内に於いては、宗務所や護法事務局、各会のお手伝いをさせて頂き、様々な経験を重ね、清水教信所長には、特別お世話になり震災の記録誌発行や管内日蓮宗新聞づくり。さらには平成十九年より日蓮宗近畿教区の事務局を勤めさせて頂き、宗務行政の一端を担う。

この間當山においては檀信徒との親交交流も深まり、寺僧和融・信頼の絆を得る。親子・あるいは祖父母ほども年の離れた目上の檀信徒に可愛がられ、ご厚誼を賜ったこと、我自身に依る。本日の華燭の典に際し、ご参列いただきたかった思いの強さ、亡くなった檀信徒も数知れず。

- ◆列席者(ご芳名)(敬称略)
- 【来賓】  
新井日湛(天香山法華経寺・近衛岡部日聰(本山・妙國寺)  
石川恒彦(柳嶋法縁法縁長)  
鈴木良敬(柳嶋法縁寺)  
清水教信(兵庫東部宗務所長)  
高羽俊泰(神戸寺院会会長)  
橋本左内(具宗義塾相模会理事長)  
上野祐一良(語りこころ戦争懸小山西一(アースデーひょうこ))
- 【寺院】  
服部聖海、矢野正明  
高川法晴、藤井照源  
福山賢修  
【導師】  
深川親澄、森安貞仁  
【知客】  
深川泰宏、戸田秀明  
【知堂】  
高川豊行、吉田和香  
服部泰敬、清水隆将  
【受付】  
田中久信、井田法幹  
矢野義法、田中一寛  
岡部泰文、長井正典  
【引立】  
藤本経尚(式)  
藤本静潤(宴)  
【会行事】  
内藤経雄
- 【檀信徒/他】  
相田照子、相田英津子、青木雅子、青木賢治、秋定勝木、秋定元次、秋定妙子、石丸弘子、今村加代子、植田恵子、上野浩、上野智恵子、白井彰、梅木綾子(献灯、梅木来葉、天童、枝澤實(案内)、枝澤安子(受付)、大川正子、大熊喜一郎、大橋一夫(案内)、大橋久美子(受付)、大橋ヒデ子、大橋麻由(發符)、大橋純子(發符)、岡崎洋(案内)、奥貞智(發符)、奥貞澄子、奥貞佳奈子(接待、奥貞佳世子(接待)、奥貞敏平(会場)、片山ハルエ、門野美津子、金光洲一郎、金光則子(案筆)、鎌倉秀子、鎌田紙野洋子(受付)、野田(案内)、紙野洋子(受付)、岸本庄一、岸本美恵子、岸本和子、岸本智恵子、木住多美子、空閑義郎(受付)、栗山富美子、國領郁子(案筆、國領望(献灯)、國領亜希子(献灯)、國領優希(天童)、國領咲希(天童)、小嶋久代、小松原壽恵子、田和章子、小松原達文、小脇和章、小脇鈴子、小脇英生(カマラ)、小脇理香(接待、佐々木千恵、佐藤貞子、佐藤整一、佐分利敬二、柴田啓一、志水郁子、下中秀美、杉山雅威(案内)、杉山喜代(受付)、



一般來賓・現総代・元総代・親族

來賓・法縁御寺院・天童・家族

祝電報

兵庫東部布教師会様より
御入寺、誠にありがとうございます。
妙法華院様のますますの御隆昌と、
新聞智孝上人のさらなる御精進御
活躍を御祈念申し上げます。

兵庫東部修法師会様より
誠にありがとうございます。
妙法華院様の法燈継承、
誠におめでたう御座ります。
この度、妙法華院様の益々の御
隆昌、檀信徒皆様のより一層の信
心増進を、心より御祈り申し上げます。

兵庫東部社教会様より
法燈継承の式典を挙げられますこと、
誠にありがとうございます。
御入寺、心より御祝儀申し上げます。

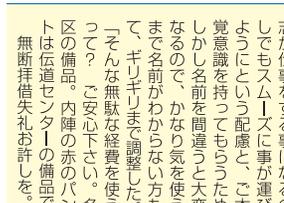
神戸寺院会様より
この度、妙法華院第五世の法燈継
承承るに心より御祝儀申し上げます。
向後は上人の力量を以て信行増進
とお題目結縁運動にご精進と妙法
華院が益々の興隆と檀方中各家の
御繁栄を心より御祈念申し上げます。

京都一部宗務所長
藤井照源 宗務所役員一同様より
新任職、新聞智孝上人のご入寺、
誠にありがとうございます。
常日ご近畿教区事務局長としての、
教区の事務運営にあたられた敬意を
表すとともに、ますますご活躍
いただきますことを期待し、為法
為宗、寺運の興隆とご健勝をお祈
りいたします。

京都二部宗務所長 宮武一龍様より
智孝上人のご入寺、誠にありがとうございます。
お上人の内に秘めた実力とアイデア
を發揮し、ますますの寺門の
発展と、宗門のためご活躍されん
ことを祈ります。

大阪府宗務所長 丸田英吉様より
新聞智孝上人、この度のご入寺、
誠にありがとうございます。何時
も教区事務では何かとお世話になり
ありがとうございます。智孝上人の
細やかな事務教区長振りにには敬
服いたしました。
また、ご退省なさいます新聞智照
僧正は、心よりご慰労申し上げます。
ご法体ご健康に、尚一層後進のため
ご薫陶下さいます。
併せて妙法華院様の益々の隆昌を
祈念し、心より御祝儀申し上げます。

大阪和泉宗務所長 佐野一秀様より
寿おめでたう、トラン最後の入寺
式おっかげよく、よろしく。
卯年さん、ハネテハネテハネテ戦
争のない世界へ、立正平和を実現
大阪三島宗務所長 井上龍芳様より
この度は新聞上人入寺法燈継承、
誠にありがとうございます。
心よりご祝儀を申し上げます。今
折り申し上げます。



大阪豊能宗務所長 石原直行様より
御入寺心より御慶び申し上げます。
御々教区事務局長としての職務、
事務能力に脱帽！感謝感謝です。
使用済み、使用後の事務報告
には痛み入ります。
妙法華院様の益々の寺門隆昌と、
新聞智孝上人の輝かしい門出を心
からお祝儀申し上げます。

兵庫東部宗務所長 森本龍静様より
新聞智孝上人御入寺誠にめでた
うございます。
日頃、教区事務局運営にご尽力賜
り厚く御礼申し上げます。
今後はご山主人として貴師の智智
とパイタリを存分に発揮され、
増々の妙法広布と寺門興隆に邁進さ
れませぬことお祈り申し上げます。
和歌山宗務所長 武内龍雄様より
この度はご晋山をお祝い申し上げます。
近畿教区の事務局長として日頃は
東奔西走の繁忙の中、針の穴に糸を通
すが如く、ぬかりなく見事に宗務事
務をやって頂いて感謝しております。
これからも、任職としてますます
のご活躍を祈念いたします。

兵庫東部宗務所長 石原直行様より
御入寺心より御慶び申し上げます。
御々教区事務局長としての職務、
事務能力に脱帽！感謝感謝です。
使用済み、使用後の事務報告
には痛み入ります。
妙法華院様の益々の寺門隆昌と、
新聞智孝上人の輝かしい門出を心
からお祝儀申し上げます。

明石妙栄寺内 山口顕慎様より
新聞智孝上人
妙法華院様への御入寺、誠にめで
たう御座ります。
この度、妙法華院様の益々の御
隆昌、智孝上人の更なる御活躍、
檀信徒皆様のより一層の信心増進を、
心より御祈り申し上げます。
御石立寺住職 安達瑞功様より
新任職にあたりまして、
ご住職におかれましては、今更と変わ
りなくアツイご指導をお願いいた
したします。

祝電光様より
第四世新聞智照日明上人様におか
れましては、法燈六十一周年、住
職五十六年間無事法燈を果たされ
敬意を表します。
ありがとうござ
いりました。新聞智孝日修上人様にお
かれますこと、遠き国境の地対
馬よりお祝い申し上げます。

目録(退寺)
一、海外旅行費 志点
今般 新聞智照日明上人 当山第四世ご
任職の御退任に当たり、総代並びに檀信徒
一同 謹呈のご功績に対し、感謝の意を表
して右 謹呈申し上げます。
尚、ご旅行に關しては、私、岡崎 洋が
帯同し申し上げ、お上人様の御力添えをさせ
て頂くこと併せてお約束致します。
惟時 平成二十二年十一月二十三日
正中山別院 護国山 妙法華院
総代並びに檀信徒一同 代表 岡崎 洋
新聞智照日明上人

目録(入寺)
一、水色正絹節本衣 一領
一、紫桔梗小紋七条横被 一被
一、淡茶織銀糸燕尾 一被
一、鼠色織銀糸燕尾 一被
一、紫宗章紋五条 一領
一、黒羽二重道服 一履
一、宗章 紋折五条 一履
一、箱中袴 一組一環
一、七条房正組紐 新象牙環 一組一環
右今般 新聞智孝日修上人 当山第五世
の法燈を継承されるに臨み本日入寺の儀
嘉辰に際し、総代並びに檀信徒一同衷心よ
り祝意を表して記念の御品を謹呈申し上げ
ます。
惟時 平成二十二年十一月二十三日
正中山別院 護国山 妙法華院
総代並びに檀信徒一同 代表 紙野 豊
新聞智孝日修上人

秘密のお話し その3
名札の秘密
当日、檀信徒の方や業者、
法縁寺内の各聖に色んなお手
伝いを願ひし、受付や接待
会場等を御受け持っていただ
け。こうした方々は、護
法大会や伝道大会で準備した
モノなので、準備には困らな
かったが、私はあえて名札を
作った。これは当日も同
志が仕事をすすめるに、少
しでもスムーズに事が進むや
すいようにという配慮と、ご本人に自
覚意識を持ってもらうためである。
しかし名前を間違えたり大変失礼に
なるので、かなり気を使う。前日
まで名前がわからない方もおら
れて、ギリギリまで調整した。えっ？
「そんな無駄な経費を使うな！
って。ご安心下さい。名札は教
区の備品。内陣の赤のパンチン
は伝道センターの備品です。
無断拝借失礼お許しを。」

秘密のお話し その2
まんじゅうの秘密
今回の法燈継承式に、
たたくため、千葉県の中山法
華院寺、新井日蓮様へご挨拶
に伺った時の事である。緊
張しながら、狸と色んなお
話をさせて頂いていただいた。
執事の方がお茶とお菓子を持
つてこられた。「このお菓子
はねえ、私が作らせている特
注のお菓子なんです。八八
ハツ」と例によって大きな声で豪
快に笑われた。私は、それをじ
んと何かウチでも出来ないかと
と考えていた。調べていたら結構
の和菓子があることを発見。さ
そく日本堂さんに相談すると、「時
期は違いますが作る上、とりの長
い返事。とりあえず法縁講座で皆
さんに実験(試着)してみよう。思っ
たより好評。
こうして接待用の
和菓子が決定した。

「受け継いだ世界の中で何が
できるか、僕ら住職にとって
それが大切なんです。」

心も柔軟で素直になると「仏と同じ境地になりたい」
身命をも惜しまないという決心がつく。



住職 新聞智孝と妙法華院

■ しんま・ちこう ■ 平成22年11月23日現在 満47歳

昭和38年 12月10日、父山崎義弘・母赤子、和歌山市にて出生。父は
誕生前の八月に逝去。翌年3月、新聞智孝、久榮に養子縁組。
新聞義彦となる。その後、妙法華院境内内に居住、神戸
で育つ。

昭和44年 8月、養母久榮逝去。
昭和45年 4月、神戸市立兵庫小学校入学。父子家庭なので低学年の頃は、
養父と三宮で新生活をスタートさせ神戸市立中学校に転校したが、
養父が仕事を失職。生活不能になり、昭和53年4月養父新聞
新聞智孝と仰る。使用済み、使用後の事務報告
には痛み入ります。
妙法華院様の益々の寺門隆昌と、
新聞智孝上人の輝かしい門出を心
からお祝儀申し上げます。

昭和51年 4月、神戸市立兵庫中学校入学。推理小説を読みふける暗い
中学時代を送る。一時期、幼少より居住していた寺を離れ、
養父と三宮で新生活をスタートさせ神戸市立中学校に転校したが、
養父が仕事を失職。生活不能になり、昭和53年4月養父新聞
新聞智孝と仰る。使用済み、使用後の事務報告
には痛み入ります。
妙法華院様の益々の寺門隆昌と、
新聞智孝上人の輝かしい門出を心
からお祝儀申し上げます。

昭和55年 4月、神戸市立神港高等学校普通科入学。本人も認める超音
痴な音符も読めない男が、何故か友人に誘われるまま吹奏
楽部に加入。一年時はチューバ、二年からサクソフを担当
する。多くの仲間友人と深い親交を持ち、この時期に現在
の性格が形成される。

昭和57年 4月、高校卒業を機に、正式に僧侶となる決意を固め立正大
学仏教学部入学。開山会で得度し、7月清濁で度牒を受け。
一二年次に、熊谷市で下宿生活をしたこと、全国各地の
友を得、視野が格段に広がる。

昭和59年 4月、三四年次は下宿を東京に移し、完全な自炊生活を送る。
アルバイトの職種も多く、中には人にあり話せないよう
な職種もある...ウフフ。この時期にかなり社会的な見分
を深められたと思う。また裁判所に出向き、戸籍より義彦
から智孝へと改名。夏には師匠、智照が主任を務める第2期
修行道場へ入り無事教師の資格を取得。新叙「准講師」とな
る。帰国後から通常の法務に加えて、建設計画や納金集め
が本格化する。様々な申請手続きや総代職員手続きなど後
者に関する業務を一切代行し、行政の仕組みを理解する。

昭和63年 4月、妙法華院新本堂、完成落慶式。毎朝の勤行前に水行を
始める。

平成元年 中山法華経寺荒行堂、初行入行。翌年成満。管内での初行
同期は、宗会議員川口久雄師・布教師会長武田隆徳師。水
行を総行文に。

平成3年 大学を卒業し帰郷したのをきっかけに、高校の吹奏楽部OB
バンド立ち上げる。そんな中で後輩、後藤陽子と出会い、
5月に結婚。陽子は寺の事務職員として働き始める。

平成4年 10月長男友祐誕生
平成6年 12月に次男世海誕生
平成7年 1月、阪神大震災発生。被災地のど真ん中で、さまざまな体
験を通して自分自身や僧侶としての生き方を見つめ直す機
会を得る。

平成9年 一念発起。妻子を残し半年間、布教研修所に入所し、身延
に於いて塚本智秀主任のもと、法華経や密教の研鑽の仕
方学ぶ。9月に兄弟子西村日貫上人蓮化。

平成10年 兵庫消防団第3分団団員に任命。現在に至る。市民救済士
の資格を取得。年末には「火のよーじん」と夜な夜な叫び
ながら、地区を徘徊している。また、この年の5月27~6月
30日に特別修行道場の書記を体験。初めて教える立場へ
となり、その難しさを痛感。

またお寺へ戻った直後から、管内の宗務所や法務事務局の
お手伝い、青年会や修法師会、社教会等の幹事を歴任する。
中でも平成15年に発行した震災記録誌「佛の涙を垂れ」
の編集の仕事は、クワイものがあったが、仕事仲間にも恵まれ、
充実した時間となる。

平成11年 5月に三男敬秀誕生。その後、名曲「だんご三兄弟のヒット」
平成12年 9月 養父昭彦逝去。
平成15年 日蓮宗新聞兵庫東部支局長の拝命を受け、管内日蓮宗新聞
「れんこんセブン」を発行。4年で計16回。
平成18年 兵庫消防団で団長賞を受賞。また自坊での行に限界を感じ、
初行から18年42歳で再行を決意する。
この時の大行堂の化主は新井日蓮様下。また入行のため
やむなく昇叙「大講師」。師匠の僧階を超えてしまう。
清水教信上人が三期目の管内所長に就任し、近畿教区長と
なる。その事務局長を拝命し、現在に至る。もう少しして
も終えるが、この4年間で近畿各宗務所との連携や宗務院との
調整役の仕事も着手し、ある程度の功績は残せたからと自
負している。この度の入寺に際し、管内全宗務所長から頂
いた祝電は宝物。併せて現在日蓮宗新聞の編集委員も勤
めており、当日の様子が1月1日付に掲載されています。

平成19年

祝賀会からの列席者
川口久雄、富田智妙、内田
泰善、清水龍隆、大塚泰寛
夏井晴雄、谷口文良、村尾
雄志、中澤弘吉、松本忠孝
小平晋慈、鈴木康照、加納
寺坂恭一、北村恭子

別記
藤田律子(染筆)

スタッフ
(DTPトクヒラ) 徳平章、
白波瀬清孝(カメラマン)、
「厳正法衣店」横村孝夫(法衣
「トランパー」松原隆之(受付)
「派屋」原田和幸(受付)
土屋良三、原田勝巳(谷本茂
公原良三、高田裕(案内)
中野紀子、茶谷恵美、比嘉
千恵美(接待)

親族
明渡澄子、明渡正、明渡捷
夫、後藤秀幸、後藤時枝、
新聞陽子、新聞友祐、新聞
世海、新聞敬秀、新聞勝代、
新聞登美江、新聞和也、新
間万里子、新聞陽二郎、新
間一美、新聞水緒、新聞美
紗、中島佐和子、三木恭子、
安江佐季子

参列檀信徒 (パターンB)

参列檀信徒 (パターンA)



杉山氏挨拶。イヨイヨおひらきです。



式衆曰く。「めっちゃ正座キツかったなあ〜」



院首への花束とテーブルの盛花は「ろおたす婦人会」



シルバーグレーの道服と声がシブい若手ホープ良敬上人



「えっ? 領収証って。」「智者はん、用意してへんやんね」



司会って、ゆつくり料理食べられな感じです。

「人の話も一応聞いとかないとねえ〜。」

# 根深ければ枝しげし

ホテルオークラ神戸「松風」の間

法燈継承式は厳かにそして肅々と執り行われ、その後列席者の集合写真をもって無事継承式も終了し、妙法華院の新しい次世代の幕開けとなりました。その後、会場をホテルオークラ神戸に移して、和やかに盛大な祝賀会が開催され、約120名ほどの方が参加されました。



「いらっしゃ〜! みんな飲んで食べて楽しんでね!」



「飲んでる?」「おう! 飲んでるのんでる」



「おそいなあ。ビールにお酒...!」



12月8日、もうすぐです。

「語りつごう、戦争展」について語る語る。



二回もしゃべるなんて、もうネウあらんよ〜

「イヤイヤ、岡部院下の薫陶はいつも勉強になります。」(新任)



来賓三人談笑中に、チョット失礼! 夏井上人



その後、立正平和の会理事長・河崎俊栄上人のスピーチ。全国宗教者平和協議会の橋本左内氏による尺八の生演奏。また妙法華院に事務所を置いている兵庫の「語りつごう戦争展」展とアーティストひょうごの代表の方からも挨拶がありました。宴もたけなわをむかえた頃、総代・大橋一夫さまのサクソフォの生演奏が披露されました。会場は一気に盛り上がりを見せ、「日本一!!」の掛け声も飛び出します。アンコールの

祝賀会は、5時半から松風の間で行われました。司会者の開式宣言の後、法燈継承式の報告を瑞演会法縁長の深川観澄僧正が行い、引き続き前任職の退任報告。祝辞は、妙國寺貫首岡部日聰院下、柳嶋法縁の鈴木良敬東京東部宗務所長と神戸寺院会の高羽俊泰僧正のお三方でした。続いて、ろおたす婦人会会長の紙野洋子さまより、院首さまへ花束の贈呈がなされ、乾杯は、川口久雄宗会議員が音頭をとられ、祝宴が始まりました。

最後に、総代さま全員が登場し、杉山雅威氏から本日法燈継承式にご協力ご列席頂いた方への謝辞が述べられ、温かく和やかに進められた祝賀会は、お開きとなりました。

拍手は鳴り止まず、最高に楽しいひと時でした。そして新任の友人・村尾雄志上人のぶっちゃけ祝辞。出だしからお品書きとカンペを間違えてボケるユーモアの演技?に、皆が惹き付けられました。新任の悪の素性を、もう少しバラして欲しかったところではありますが、ギリギリの所で止められました。最後に夫婦揃って壇上に立たれた、住職曰く「智照上人は、「ろおたす」と挨拶。『れんこん』というキーワードをテーマとしてお話されました。



「もう今日は私、仕事終了ですね? 飲んでエエっすよね。」



「カンペの字が小さくて見えん。とりあえずお題目の縁や!!」



「まあまあ、今後ともよろしゅうお願いします!」



「リクエストあれば、出張演奏承ります。」



「飲みほ〜だいが?」「結構つまいなあ」

「法燈継承式に出席したかったが、身体が悪くて行かない」「混雑すると思っただけで、皆さんの声を聞いて、写真新聞をお届けしたい」と12月の運営会議で提案した。総代さんの承認を得たので、それから1ヶ月あまりの編集作業で、こうしてナント力形が出来上がった。写真だけでなく、記録としてのデータも残しておきたかったので、必然的に文字数が多くなり字が小さくなってしまったのは、ほんとかもなさい。当日の雰囲気も、ただでさえ感じとっていただければ幸甚です。また今後の寺報の在り方の布石として捉えていただいて、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

智孝上人の山主法話? あとがき



4 食事の秘密 秘密のお話し その4 今回、運営会議(総代会)を何度も開いて、少しずつ準備を進めていった。師匠が「祝宴も開催せよ」との意向だったので、会議の場に、祝宴会場の資料を作った。こうして三つのホテルの中からオークラに絞り込んだ。日にちと会場を押さえた時点で、私は「ほぼこの事は終わり」と思っていたのだが、食事のメニューについては、皆さんから多くの意見が出てくる。「洋食はダメ」「着を使う方が良し」「和食は高くなる」「内容がしょぼい」「中華は取るのが面倒」等々。会費制に決まったから余計に意見が出るのかな?「ある程度ホテル任せでええやん」と思っていた私は、「これなあらいこっちゃ」と、とにかく皆さんの意見に耳を傾けた。ホテルへ意向を伝え、何度か打合せを重ねて、最終的には師匠と伯母を連れて試食に行った。「1里」の板長とも細部まで確認し、こうしてメニューが完成したのである。妙法華院のオリジナル特別会席のお味は如何でしたか?